

差動トランス式ローラ型傾斜計 INA-Rシリーズ



本器は、土木建築工事での山留や地盤の変形、隣接構造物の傾斜計測において、地中連続壁、シートパイル、鋼管矢板、H鋼、コンクリート壁等に計測管を設置し、深度ごとの傾斜を測定して区間ごとの水平変位を算出することができます。

検出部には高精度な差動トランスを使用し、絶縁低下による影響も受けにくいいため、長期にわたり安定した測定ができます。

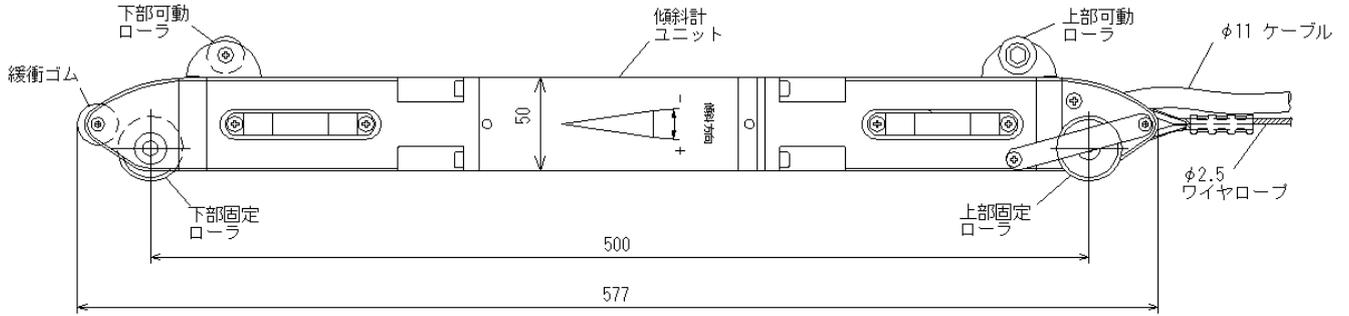
【特長】

- ・差動トランス式ならではの特長により、高品質の測定が可能です。
- ・高精度の当社独自の差動トランスを採用しています。
- ・絶縁低下の影響を受けにくい構造となっています。
- ・機械的磨耗部がなく長期的、電氣的に安定度の高いセンサ設計となっています。
- ・堅牢な構造で現場での取り扱いも容易です。1MPaの耐水圧構造となっています。
- ・筐体センサ部はステンレス鋼を使用し高い耐蝕性を有しています。
- ・点検・保守の継続により長年に渡りご使用いただけます。

【仕様】

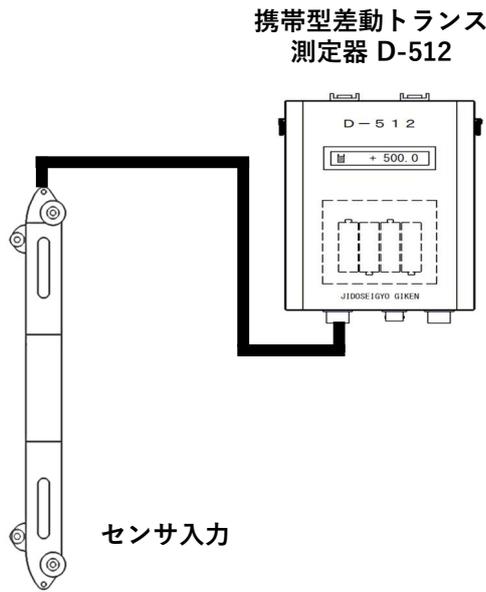
項目	仕様		
型式	INA-150R	INA-300R	INA-1200R
容量	±2.5度	±5度	±20度
分解能	1.8秒	3.6秒	14.4秒
直線性	0.8%FS以下		
使用温度範囲	-60～+80℃（但し凍結なきこと）		
温度ドリフト	±2.5秒/℃以下	±7.2秒/℃以下	±28.8秒/℃以下
温度感度変化（FSに対し）	0.01%/℃以下	0.05%/℃以下	0.05%/℃以下
付属ケーブル	内部シールド付フレキシブルコイルケーブル(VC-03-2-2-Φ11)		
外装	ステンレス, アルミ, 黄銅		
重量	約3kg（ケーブルを除く）		

【外観図】

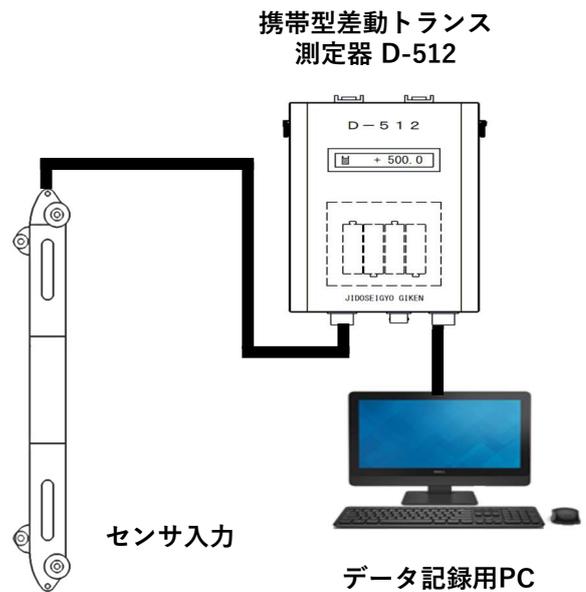


【測定ブロック図】

◆単独接続の場合



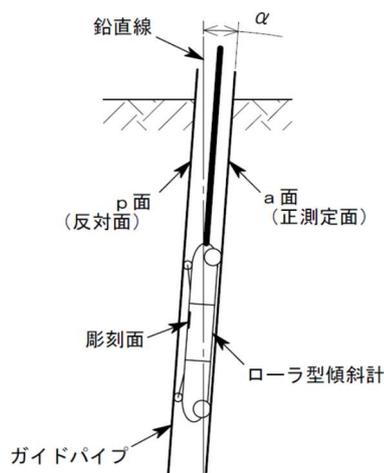
◆オンライン接続の場合



【測定風景】



【測定方法】



計測管は□75の角パイプを使用しますが、180°反転させて対向する2面を測定して鉛直からの傾斜角を算出する方法により、傾斜計の原点ドリフトがキャンセルされ、より高精度な計測が可能となります。

 株式会社 自動制御技術研究所

●本社所在地 〒143-0022
東京都大田区東馬込1丁目7番5号
TEL 03-3776-1213
FAX 03-3775-1142
E-mail info@jsg.co.jp

掲載内容は予告なく変更することがあります。
掲載内容は平成29年4月現在のものです。